

# 個人データ利用に対する不安と SNS 等での自己情報開示の関連

○堀川裕介 (HORIKAWA, Yusuke)

**Keywords** : 個人データ利用、プライバシー、不安、SNS、自己に関する情報開示

## 1 目的

本研究の目的は、身のまわりの出来事や自撮り画像を発信するといった自己に関する情報開示を伴うアプリ利用が、官庁・企業などによる個人データ利用に対して人々が抱く不安とどのように関連しているか明らかにすることである。総務省が 2020 年に行った多国間比較アンケート調査<sup>(1)</sup>では日本人回答者の 80%弱が個人データ提供に不安と答え、諸外国より不安が高い状況にあることが知られている。一方でソーシャルメディア利用率や利用時間が年々増加する<sup>(2)</sup>など人々が自己に関する情報開示に慣れる状況も表れつつある。そこで本研究ではアプリ上での自己に関する情報開示の度合いが個人データ利用に対する不安の大小とどのように関連しているかを検証した。

## 2 方法

本研究では< SNS 等のアプリを介した自己に関する情報開示の度合いが高いほど個人データ利用に対する不安が低い > の仮説を立て、① SNS 等のアプリへの投稿頻度、② アプリ上での情報開示行動 (投稿・自撮りなど) の度合いに関する変数と、③ プライバシーに関する不安意識<sup>(3)</sup>、④ 個人データの収集に対する不安・不満、⑤ 個人データ利用に関するリスク認識といった変数との関連を検討した。分析に用いた①～⑤の変数は NTT セキュアプラットフォーム研究所と東京大学橋元研究室の共同研究グループが 2020 年 3 月 9～16 日に実施したウェブアンケート調査 (15～69 歳男女、有効回答 3,651 票) によって収集したものをを用いた。

## 3 結果

上記の変数①②と③④⑤を掛け合わせての相関分析を行った結果、②と③④⑤の間で有意な関連がみられた。③については、自己情報開示の度合いが高いほどプライバシーに関する不安意識が低かった。④についても同様に自己情報開示の度合いが高いほど個人データ収集に対する不安・不満が低い傾向がみられた。一方⑤については、自己情報開示の度合いが高いほど個人データ利用に関するリスク認識が低い結果がみられた。

## 4 結論

当初の仮説通り、SNS 等のアプリを介した自己に関する情報開示の度合いが高いほど個人データ利用に対する不安が低く、自己情報開示への慣れが官庁・企業などによる個人データ利用の許容につながっている可能性がうかがわれた。一方でその許容意識は、個人データ利用のリスク面に対する認知を必ずしも伴っていないとも考えられ、その基礎が危ういことも浮き彫りになった。

### 【主要参考文献】

(1) 令和 2 年版情報通信白書 第 3 章第 3 節

(2) 令和 2 年版情報通信白書 第 5 章第 2 節

(3) Malhotra, N.K., Kim, S.S., & Agarwal, J. (2004) 'Internet User's Information Privacy Concerns (IUIPC): The Construct, the Scale, and a Causal Model', Information System Research, 15(4), 336-355.